

何処どこに行きようもない人のために

— PMSの新規事業、コッタダラ用水路建設について

PMSエンジニア デイダールムシユタク / PMS支援室長 藤田千代子

PMSは二〇二〇年十二月に着工したバルカシコート堰事業を今年九月末に完成させ、今冬はナンガラハル州コット郡で新規事業を開始する予定で調査を進めています。ここで、この計画についてご報告をいたします。

干ばつの厳しさに驚く

二〇二一年十二月、PMS副院長のジア先生から、ナンガラハル州のPMS活動地以外で、厳しい干ばつに被災し食糧危機に陥

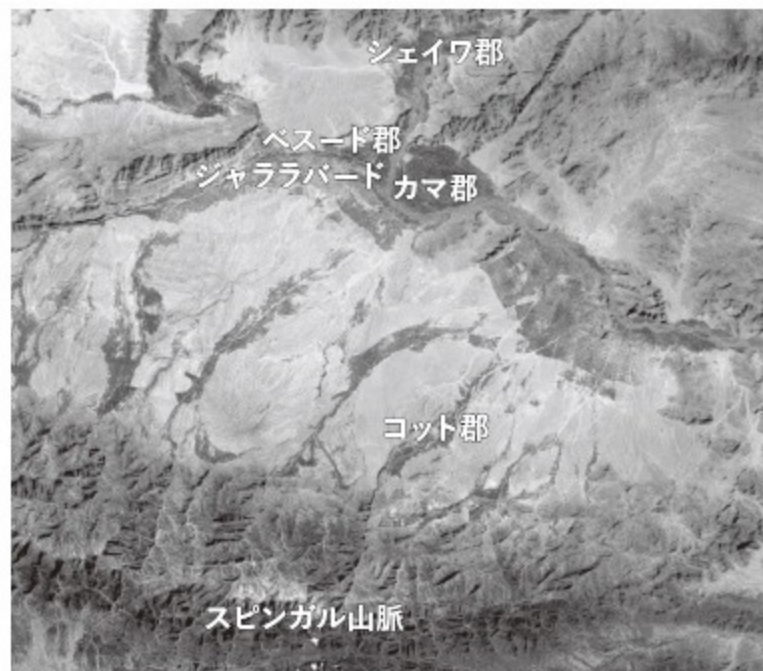
っている地域で食糧配給をしたいとの要望があり、今年一月末から二月に栄養失調児と妊産婦への配給を六つの郡で実施しました。十数年ぶりにこれらの地域へ足を運んだPMSの職員たちは、あまりの干ばつの厳しさに驚きました。彼らが中村先生と用水路を造っているシェイワ、カマ、ベスード郡では田畑は作物で溢れ、余剰作物は路上やバザールで売られるほどになっていたのです。以前PMSが井戸掘削をしたアチン郡も他の郡と

同様に田畑はすっかり干上がり、小麦や野菜畑を見ることはできませんでした。

職員たちは食糧配給地の六郡に向かう時、雪を戴いたスピンガル山脈を間近に目にしました。そして中村先生と同じように「滞留することなく流れ下る雪解け水や雨水を農地に利用できないか」と考え、日本側と協議しながら数カ所で調査を重ねました。

コッタダラの現況

コッタダラ（ダラII谷の意）はナンガラハル州南部のコット郡に位置し、アフガニスタンの中で最も貧しい辺境地の一つで、支援等も受けられていません。二〇一五年から一六年に戦争が激化した地域で、ほとんどの家屋や田畑は破壊され、住民たちは生



PMS作業地からやや離れた新事業地コット郡



コット郡での三者協議 (2022年8月29日)

き残るために故郷を離れてゆきました。

二〇一七年には記録的な干ばつに被災した隣国パキスタンから強制送還されたアフガン難民や、ナンガラハル州内の干ばつ被災地や近隣のクナール州、ラグマン州から職を求める人々がジャラバード一帯に殺到しました。閑散としていたPMS工事現場の国道沿いに突然バザールが林立した頃です。職を得ることが出来なかったコットの難民たちは故郷へ戻りました。

しかし、近年の地球温暖化の影響で干ばつ、豪雨、洪水が繰り返し発生し、アフガニスタンの伝統的手法で造られた取水口は自然の猛威にさらされ壊滅状態。農地に十

分な水が行き渡らず耕作が年々難しくなっていました。コット郡の大半は農民であり、耕作ができないことは失業を意味します。通常であれば職を求めて隣国パキスタンへ行きますが、既述のような理由に加え新型コロナウイルス感染症も発生し国境は閉鎖。住民たちは何処に行きようもなく生活は日々悪化しています。

用水路建設計画

この度、住民たちの要請によりPMSは調査を開始し、協議の結果、今冬から工事に着手することになりました。本計画は小規模ではありますが、スピンガル山脈を水源とするコット川に堰を造成して取水する用水路と、その周辺山岳部に数多くある湧水を導く用水路を下流で一本化させて農地を灌漑する（かんがい）という、PMSでは初めての取り組みになります。

コット川の下流側へ影響を及ぼさない範囲の水の利用等について流域住民と協議を重ねました。去る八月二十九日には、同郡の関係局役人、各村の長老との三者協議が行われ、コット郡と全村自治会を挙げてPMSの工事と安全のため万全を期すことが決定されました。

工事の概要は次の通りです。

目的 農業・畜産の復旧により、失業者の帰農を促し自給自足を可能とする。

工期 二〇二二年冬～二〇二三年冬

灌漑面積 一二〇〇～四五〇〇ヘクタール(要

再調査)
裨益人口 約一万一四〇〇人
主な工事

- ① 堰
- ② 取水門
- ③ 湧水からの導水路
- ④ 用水路約四三〇〇m
- ⑤ 護岸堤造成
- ⑥ 植樹他

アフガニスタンの国民の半数が食糧危機にある中で、人々はPMSの仕事に希望をつないでいます。八月の大洪水でPMSの活動地の護岸堤が洗掘され、村へ溢水（あふみず）しようとする寸前で昼夜の緊急工事が一週間続きました。職員たちが各現場へ出向くと村人たちは安堵し共に働きました。いろいろな場面で、彼らは中村先生の想いをしっかりと継いでいると感じています。今後ともご協力をお願い申し上げます。

▼寄付をしてくださる皆さまへ

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますようお願い致します。

▼未使用の切手、書き損じハガキ(官製ハガキ・年賀ハガキ)をお送り下さい

*引き出しの中などに眠っているものをお送りいただければ幸いです。会報発送等に使用させていただきます。なお、外国の切手は取り扱っておりません。